



平成19年3月期 第1四半期財務・業績の概況（連結）

平成18年7月31日

上場会社名 富山化学工業株式会社

（コード番号：4518 東証第一部）

（URL <http://www.toyama-chemical.co.jp/>）

問合せ先 代表者役職・氏名 取締役兼代表執行役社長 中野 克彦
責任者役職・氏名 常務執行役 経営戦略部門長 水野 淳一
兼経営企画部長

TEL：(03) 5381-3818

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

- ① 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
税金費用及び税効果会計については、法定実効税率をベースとした年間予測税率を用いて計算しております。
- ② 最近連結会計年度からの会計処理の変更の有無 : 無
- ③ 連結及び持分法の適用範囲の移動の有無 : 無

2. 平成19年3月期第1四半期財務・業績の概況（平成18年4月1日～平成18年6月30日）

（1）経営成績（連結）の進捗状況 （注）金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

	売上高		営業利益		経常利益		四半期（当期）純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19年3月期第1四半期	5,161	34.8	△189	—	△569	—	△566	—
18年3月期第1四半期	3,829	△69.1	△1,550	—	△1,630	—	△1,625	—
（参考）18年3月期	23,123		1,523		835		453	

	1株当たり四半期（当期）純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益
	円 銭	円 銭
19年3月期第1四半期	△2 89	—
18年3月期第1四半期	△8 27	—
（参考）18年3月期	2 31	2 31

（注）1. 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年第1四半期増減率であります。

2. 平成19年3月期第1四半期及び平成18年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、四半期純損失が計上されたため記載しておりません。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

当第1四半期の売上高は51億61百万円となりました。

医療用医薬品の売上高は、ニュータイプの経口用キノロン系抗菌剤「T-3811（一般名：ガレノキサシン）」に関するアステラス製薬株式会社からの承認申請に伴う一時金が寄与したことなどから前年に比べ増加しております。

大正富山医薬品株式会社は、昨年から取り組んでいる「重点化と集中化」を基本に、重点薬剤に傾注した訪問宣伝活動の展開により営業活動の集中化を図っております。しかしながら本年4月に実施された薬価基準引き下げの影響及び後発品上市の影響を受けた結果、大正富山医薬品株式会社への医療用医薬品の売上高は、前年同四半期実績と比較して減少いたしました。主力品の注射用ペニシリン系抗生物質剤「ペントシリン」及び経口用セフェム系抗生物質剤「トミロン」は薬価基準引き下げの影響が大きく、売上は減少しております。しかしながら、経口用ニューキノロン系抗菌剤「オゼックス」及び注射用ニューキノロン系抗菌剤「パシル」については薬価基準引き下げをカバーし売上を拡大、また長期育成品のループ利尿剤「ルプラック」については売上を維持いたしました。

販売費及び一般管理費については、研究開発費が当初計画どおり増加したことから、前年同四半期実績と比較して5億51百万円増加いたしました。

その結果、当第1四半期は営業損失1億89百万円、経常損失5億69百万円、四半期純損失5億66百万円となりました。

(2) 財政状態（連結）の変動状況

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり 純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年3月期第1四半期	67,703	32,641	48.2	166 34
18年3月期第1四半期	67,972	30,338	44.6	154 41
(参考) 18年3月期	68,961	33,428	48.5	170 28

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
19年3月期第1四半期	4,509	34	△99	13,057
18年3月期第1四半期	△927	△1,884	4,930	15,814
(参考) 18年3月期	△5,981	△1,471	2,293	8,616

[財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等]

① 財政状態の変動状況

当第1四半期末の総資産は677億3百万円であり、前連結会計年度末に比べ12億57百万円減少いたしました。

② キャッシュ・フローの状況

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、前連結会計年度末に売上債権（売掛金）として計上しておりましたアステラス製薬株式会社からの契約一時金が入金されたことなどから、45億9百万円の収入（前年同四半期9億27百万円の支出）となりました。また、「投資活動によるキャッシュ・フロー」についても有価証券の売却等により34百万円の収入（前年同四半期18億84百万円の支出）となりました。

一方、「財務活動によるキャッシュ・フロー」は自己株式の取得などにより99百万円の支出（前年同四半期49億30百万円の収入）となりました。

以上のことから、当第1四半期末の現金及び現金同等物の残高は前連結会計年度末に比べて44億40百万円増加し、130億57百万円となりました。

3. 平成19年3月期の連結業績予想（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

中間期及び通期の業績予想につきましては、当第1四半期における業績が概ね計画どおりに推移しており、現時点では平成18年5月15日に発表いたしました業績予想から変更はありません。

※上記の予想は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予想を含んで記載しております。実際の業績は、今後様々な要因によって上記予想とは異なる結果となる可能性があります。

○ 添付資料

(要約) 四半期連結貸借対照表、(要約) 四半期連結損益計算書、四半期連結株主資本等変動計算書
(要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書など

以上

1. (要約) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円、%)

科 目	当 四 半 期 (平成19年3月期 第1四半期末)	前年同四半期 (平成18年3月期 第1四半期末)	増 減		(参 考) 平成18年3月期
	金 額	金 額	金 額	増 減 率	金 額
(資産の部)					
I 流動資産					
1. 現金及び預金	4,009	6,317	△2,308	△36.5	4,566
2. 受取手形及び売掛金	5,707	2,580	3,127	121.2	10,964
3. 有価証券	10,407	14,855	△4,447	△29.9	5,609
4. たな卸資産	8,950	8,143	806	9.9	8,254
5. 繰延税金資産	340	560	△220	△39.3	342
6. その他	1,421	1,395	25	1.9	1,877
貸倒引当金	△10	△8	△2	26.1	△16
流動資産合計	30,825	33,844	△3,018	△8.9	31,597
II 固定資産					
1. 有形固定資産	22,723	22,540	183	0.8	22,680
(1) 建物	6,806	7,447	△641	△8.6	6,913
(2) 機械及び装置	1,404	1,256	148	11.9	1,368
(3) 土地	12,644	12,712	△68	△0.5	12,644
(4) その他の有形固定資産	1,868	1,124	744	66.2	1,754
2. 無形固定資産	389	543	△154	△28.4	469
3. 投資その他の資産	13,765	11,043	2,721	24.6	14,213
(1) 投資有価証券	8,238	6,150	2,088	34.0	8,660
(2) 繰延税金資産	2	516	△513	△99.4	3
(3) その他	5,630	4,471	1,159	25.9	5,660
貸倒引当金	△107	△94	△12	13.6	△110
固定資産合計	36,878	34,127	2,750	8.1	37,363
資産合計	67,703	67,972	△268	△0.4	68,961
(負債の部)					
I 流動負債					
1. 支払手形及び買掛金	3,507	3,189	318	10.0	3,534
2. 短期借入金	—	4,236	△4,236	—	—
3. 一年以内償還予定の社債	50	—	50	—	—
4. 未払法人税等	38	37	0	0.9	74
5. 賞与引当金	442	458	△16	△3.6	246
6. 返品調整引当金	1	5	△4	△69.0	3
7. その他	1,130	979	150	15.4	1,538
流動負債合計	5,169	8,907	△3,737	△42.0	5,397
II 固定負債					
1. 社債	—	50	△50	—	50
2. 長期借入金	16,186	14,473	1,712	11.8	16,186
3. 繰延税金負債	223	—	223	—	274
4. 再評価に係る繰延税金負債	2,427	2,448	△21	△0.9	2,427
5. 退職給付引当金	7,811	7,747	63	0.8	7,858
6. 役員退職慰労引当金	1	4	△3	△73.4	7
7. 連結調整勘定	—	4	—	—	3
8. 負ののれん	3	—	—	—	—
9. 長期未払金	3,201	3,765	△564	△15.0	3,276
10. その他	37	232	△194	△83.7	50
固定負債合計	29,892	28,727	1,165	4.1	30,134
負債合計	35,062	37,634	△2,572	△6.8	35,532

科 目	当 四 半 期 (平成19年3月期 第1四半期末)	前年同四半期 (平成18年3月期 第1四半期末)	増 減		(参 考) 平成18年3月期
	金 額	金 額	金 額	増 減 率	金 額
(資本の部)					
I 資本金	—	22,400	—	—	22,400
II 資本剰余金	—	21,533	—	—	21,536
III 利益剰余金	—	△12,934	—	—	△10,828
IV 土地再評価差額金	—	△1,594	—	—	△1,621
V その他有価証券評価差額金	—	1,206	—	—	2,331
VI 自己株式	—	△273	—	—	△390
資本合計	—	30,338	—	—	33,428
負債及び資本合計	—	67,972	—	—	68,961
(純資産の部)					
I 株主資本					
1. 資本金	22,400	—	—	—	—
2. 資本剰余金	21,536	—	—	—	—
3. 利益剰余金	△11,398	—	—	—	—
4. 自己株式	△486	—	—	—	—
株主資本合計	32,051	—	—	—	—
II 評価・換算差額等					
1. その他有価証券評価差額金	2,258	—	—	—	—
2. 繰延ヘッジ損益	△47	—	—	—	—
3. 土地再評価差額金	△1,621	—	—	—	—
評価・換算差額等合計	589	—	—	—	—
純資産合計	32,641	—	—	—	—
負債及び純資産合計	67,703	—	—	—	—

2. (要約) 四半期連結損益計算書

(単位：百万円、%)

科 目	当 四 半 期 (平成19年3月期 第1四半期)	前年同四半期 (平成18年3月期 第1四半期)	増 減		(参 考) 平成18年3月期
	金 額	金 額	金 額	増 減 率	金 額
I 売上高	5,161	3,829	1,331	34.8	23,123
II 売上原価	2,420	2,999	△578	△19.3	12,140
売上総利益	2,740	829	1,910	230.3	10,982
返品調整引当金戻入額	2	0	1	320.0	2
差引売上総利益	2,742	830	1,912	230.4	10,985
III 販売費及び一般管理費	2,932	2,381	551	23.2	9,461
営業利益又は損失(△)	△189	△1,550	1,361	△87.8	1,523
IV 営業外収益	39	107	△68	△63.4	356
1. 受取利息	7	13	△6	△43.6	58
2. 受取配当金	16	15	1	9.3	62
3. 為替差益	—	57	△57	—	117
4. その他	15	21	△6	△28.6	117
V 営業外費用	418	186	231	123.9	1,043
1. 支払利息	102	113	△11	△10.1	425
2. たな卸資産評価損	185	32	152	463.6	95
3. 持分法による投資損失	98	3	95	—	165
4. その他	32	36	△4	△12.0	356
経常利益又は損失(△)	△569	△1,630	1,061	△65.1	835
VI 特別利益	9	8	0	8.6	227
1. 貸倒引当金戻入額	9	8	0	8.6	—
2. 投資有価証券売却益	—	—	—	—	227
VII 特別損失	—	—	—	—	358
1. 減損損失	—	—	—	—	358
税金等調整前当期純利益 又は四半期純損失(△)	△559	△1,621	1,061	△65.5	704
法人税、住民税及び事業税	5	3	2	67.2	30
法人税等調整額	1	0	0	117.2	221
当期純利益又は四半期純損失(△)	△566	△1,625	1,058	△65.1	453

3. 四半期連結剰余金計算書

(単位：百万円)

科 目	当 四 半 期 (平成19年3月期 第1四半期)	前年同四半期 (平成18年3月期 第1四半期)	(参 考) 平成18年3月期
	金 額	金 額	金 額
(資本剰余金の部)			
I 資本剰余金期首残高	—	21,533	21,533
II 資本剰余金増加高	—	—	2
1. 自己株式処分差益	—	—	2
III 資本剰余金四半期末(期末)残高	—	21,533	21,536
(利益剰余金の部)			
I 利益剰余金期首残高	—	△11,310	△11,310
II 利益剰余金増加高	—	1	482
1. 四半期(当期)純利益	—	—	453
2. 土地再評価差額金取崩額	—	1	29
III 利益剰余金減少高	—	1,625	—
1. 四半期純損失	—	1,625	—
2. 自己株式処分差損	—	0	—
IV 利益剰余金四半期末(期末)残高	—	△12,934	△10,828

4. 四半期連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

科 目	当 四 半 期 (平成19年3月期第1四半期)									
	株 主 資 本					評 価 ・ 換 算 差 額 等				純 資 産 計 合 計
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	土 地 再 評 価 差 額 金	評 価 ・ 換 算 差 額 合 計	
期 首 残 高	22,400	21,536	△10,828	△390	32,718	2,331	—	△1,621	710	33,428
四半期中の 変 動 額										
四半期純損失	—	—	△566	—	△566	—	—	—	—	△566
自己株式の取得	—	—	—	△101	△101	—	—	—	—	△101
自己株式の処分	—	—	△3	4	1	—	—	—	—	1
株主資本以外の 項目の当四半期 中の変動額(純 額)	—	—	—	—	—	△73	△47	—	△120	△120
四半期中の 変動額合計	—	—	△570	△96	△666	△73	△47	—	△120	△787
四半期末残高	22,400	21,536	△11,398	△486	32,051	2,258	△47	△1,621	589	32,641

5. (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当 四 半 期 (平成19年3月期 第1四半期)	前年同四半期 (平成18年3月期 第1四半期)	(参 考) 平成18年3月期
	金 額	金 額	金 額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
1. 税金等調整前当期純利益又は四半期純損失 (△)	△559	△1,621	704
2. 減価償却費	294	271	1,182
3. 減損損失	—	—	358
4. 長期前払費用償却額	2	3	14
5. 貸倒引当金の増減額 (減少：△)	△9	△8	20
6. 賞与引当金の増減額 (減少：△)	195	225	13
7. 退職給付引当金の増減額 (減少：△)	△47	△49	61
8. 役員退職慰労引当金の増減額 (減少：△)	△5	△8	△6
9. 受取利息及び受取配当金	△24	△28	△121
10. 支払利息	102	113	425
11. 為替差益	—	△33	△113
12. 為替差損	3	—	—
13. 持分法による投資損益 (利益：△)	98	3	165
14. 売上債権の増減額 (増加：△)	5,256	343	△8,040
15. たな卸資産の増減額 (増加：△)	△695	98	△12
16. 仕入債務の増減額 (減少：△)	179	△13	322
17. その他	△222	△221	△712
小計	4,567	△924	△5,737
18. 利息及び配当金の受取額	23	28	122
19. 利息の支払額	△69	△14	△330
20. 法人税等の支払額	△11	△16	△36
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,509	△927	△5,981
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
1. 有価証券の取得による支出	△300	△2,497	△5,592
2. 有価証券の売却による収入	499	1,199	6,990
3. 有形固定資産の取得による支出	△347	△143	△1,420
4. 有形固定資産の売却による収入	0	23	26
5. 投資有価証券の取得による支出	△0	△200	△1,319
6. 投資有価証券の売却による収入	200	300	836
7. 定期預金の預入による支出	—	△1,000	△1,720
8. 定期預金の引出しによる収入	—	500	1,220
9. その他	△17	△66	△492
投資活動によるキャッシュ・フロー	34	△1,884	△1,471
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
1. 短期借入金の返済による支出	—	—	△4,100
2. 長期借入れによる収入	—	5,000	6,712
3. 長期借入金の返済による支出	—	△64	△200
4. 自己株式の取得による支出	△101	△6	△136
5. 自己株式の売却による収入	1	1	17
財務活動によるキャッシュ・フロー	△99	4,930	2,293
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△3	33	113
V 現金及び現金同等物の増減額 (減少：△)	4,440	2,152	△5,045
VI 現金及び現金同等物の期首残高	8,616	13,662	13,662
VII 現金及び現金同等物の四半期末 (期末) 残高	13,057	15,814	8,616

平成19年3月期 第1四半期業績概要 付帯資料

医療用医薬品等主要製品売上高

(単位：百万円)

	平成19年3月期（予想）		平成19年3月期 第1四半期	平成18年3月期 第1四半期
	中 間	年 間		
医療用医薬品	6,550	14,800	2,847	3,068
ペントシリン	1,850	3,600	764	895
トミロン	1,100	2,450	548	656
オゼックス	850	2,000	429	406
ルブラック	550	1,100	263	263
パシル	450	1,000	223	218
つくしAM散	300	600	151	166
タゾシン	250	500	109	110
ハロスボア	150	300	61	85
その他	1,050	3,250	294	266
技術料収入	2,000	9,200	2,000	—
医療用医薬品以外	50	100	22	81
単体合計	8,600	24,100	4,869	3,149
連結子会社	1,100	2,200	291	679
連結合計	9,700	26,300	5,161	3,829

新 製 品 開 発 状 況

国内開発

平成 18 年 7 月 31 日

開発段階	開発番号 (商品名)	剤形	薬効	特 徴	備 考
申請中	T-614 (コルベット)	経口剤	抗リウマチ剤	疾患修飾型抗リウマチ剤 (DMARD)。炎症性サイトカイン産生の抑制作用、免疫グロブリンの産生抑制作用を有しており、臨床試験で関節リウマチの優れた改善作用が認められた。 2003 年 9 月申請済み。	<国内> エーザイと共同開発 <海外> 南アフリカ：Phase II a 終了 (自社) 韓国：東亜製薬へ導出
申請中	T-3811	経口剤	ニュータイプのキノロン系合成抗菌剤	既存のニューキノロン剤とは異なる構造を有し、特に呼吸器感染症の多剤耐性菌を含む起炎菌に強い抗菌力を示した。また、安全性面では関節毒性が弱いことより、小児への効能拡大を今後予定している。 2006 年 5 月申請済み。	一般名：Garenoxacin <国内> 大正製薬と共同開発 アステラス製薬と販売及び共同開発契約 <海外> 米国シリング・プラウ社へ導出 韓国：東亜製薬へ導出
Phase I		注射剤			
Phase III	YP-18	注射剤	β -ラクタマーゼ阻害剤配合抗生物質	ペントシリンと β -ラクタマーゼ阻害剤を 8:1 で配合。既に、米国をはじめ世界 80 数カ国承認され、高く評価されている薬剤。海外の標準用法・用量で、肺炎、尿路感染症、敗血症、小児感染症等の効能取得を目指している。	<国内> 大鵬薬品と共同開発
Phase I	T-5224 (AP-1 阻害剤)	経口剤	抗リウマチ剤	転写因子 AP-1 を阻害することで、炎症や関節破壊を抑えることができることから、関節リウマチの根本治療薬として期待できる。2006 年 6 月 PI 開始。	科学技術振興機構からの国内開発委託事業
非臨床	T-1106	経口剤	抗ウイルス剤	C 型肝炎治療剤。HCV RNA ポリメラーゼに対し強い阻害活性を示した。	
非臨床	T-2307	注射剤	抗真菌剤	既存薬とは異なる新規な作用機序を持ち、広範な抗真菌スペクトルを有する。また、既存薬に対する耐性菌にも有効。	
非臨床	T-705	経口剤	抗ウイルス剤	抗インフルエンザウイルス剤。ウイルスの RNA ポリメラーゼに作用し、ウイルスの複製を阻害する。トリインフルエンザ A (H5N1) 型に有用性が期待できる。	

海外開発

開発段階	開発番号	剤形	薬効	特 徴	備 考
申請中	T-3811	経口剤	ニュータイプのキノロン系合成抗菌剤	幅広い抗菌スペクトルを持ち、PRSP、MRSA などの耐性菌にも有効である。優れた体内動態で 1 日 1 回の投与。呼吸器感染症から、外科系感染症までの幅広い適応を持つ。合成抗菌剤だけではなくセフェム、ペニシリン、マクロライド等幅広い対照薬との臨床試験の結果、同等以上の優れた有効性、安全性が証明されている。	<導出先> 米国シリング・プラウ社
		注射剤			
Phase I	T-817MA	経口剤	アルツハイマー型認知症治療剤	強い神経細胞死抑制作用を持つ。また、神経突起進展促進作用も有しており、病態モデルで優れた有効性を示している。	<海外> 米国：2005 年 7 月 PI 開始